


作成日 2012年12月15日

作成者 株式会社 内藤建築設計事務所

確認日

確認者

## (1) 建物概要

建物名称	(仮称)静岡県草薙総合運動場体育館	敷地面積	25,542 m <sup>2</sup>	
建物用途	集会所	建築面積	9,701 m <sup>2</sup>	
建設地	静岡市	延床面積	13,509 m <sup>2</sup>	
気候区分	地域区分IV	階数	地上2階、地下1階	
地域・地区	第2種中高層住居専用地域	構造	、一部 混構造(鉄骨造・木造)	
竣工年	2014年11月 予定	平均居住人員	3,000 人	
		年間使用時間	4,380 時間/年	

## (2)-1 環境性能評価結果 (バーチャート)

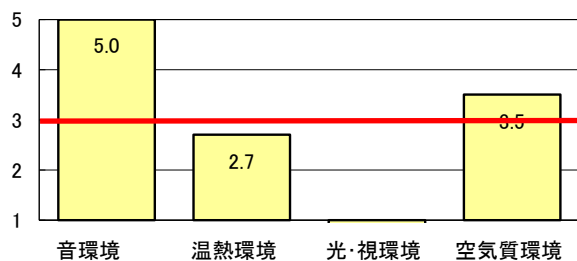
注1

### Q 建築物の環境品質・性能 (居住環境のアメニティを向上させる性能評価)

SQ= 3.3

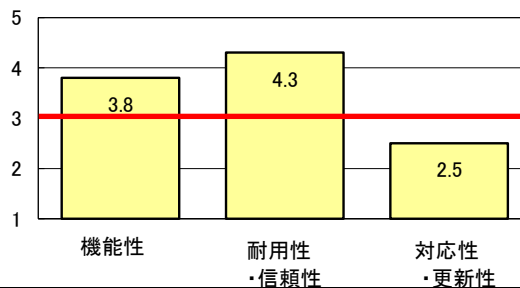
#### Q-1 室内環境

スコア(評価点): SQ1 = 3.5



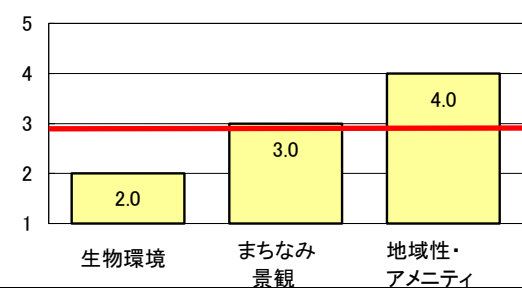
#### Q-2 サービス性能

スコア(評価点): SQ2 = 3.6



#### Q-3 室外環境 (敷地内)

スコア(評価点): SQ3 = 3.0

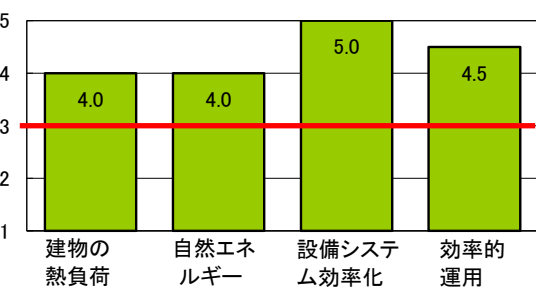


### LR 建築物の環境負荷低減性 (環境負荷を低減させる性能評価)

SLR= 3.4

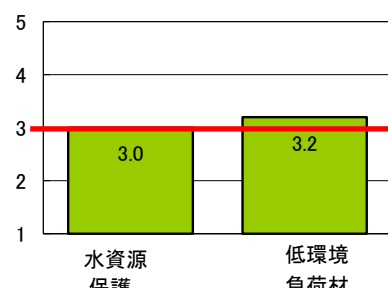
#### LR-1 エネルギー

スコア(評価点): SLR1 = 4.4



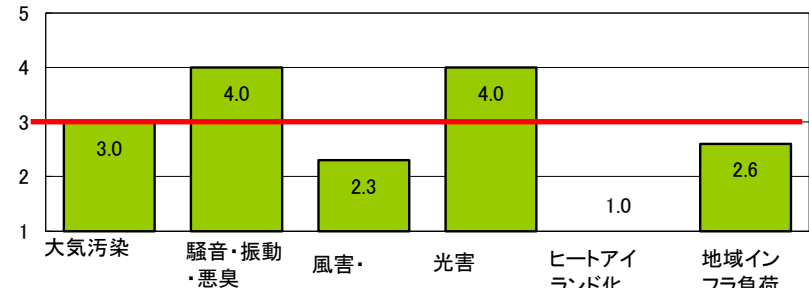
#### LR-2 資源・マテリアル

スコア(評価点): SLR2 = 3.1



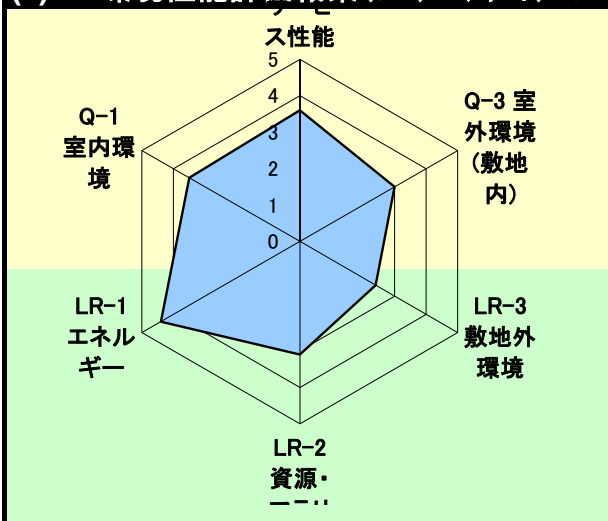
#### LR-3 敷地外環境

スコア(評価点): SLR3 = 2.4



## (2)-2 環境性能評価結果 (レーダーチャート)

注1



## (2)-3 環境性能効率率

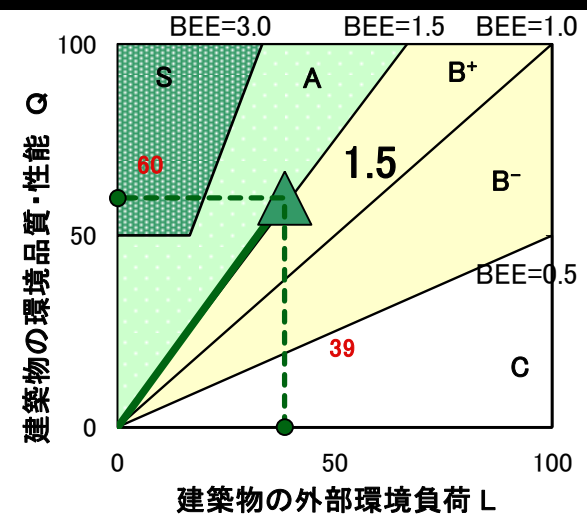
BEE

注2

$$BEE = \frac{\text{建築物の環境品質・性能 } Q}{\text{建築物の外部環境負荷 } L}$$

$$= \frac{25 \times (SQ - 1)}{25 \times (5 - SLR)}$$

$$= \frac{59.7}{38.5} = 1.5$$



凡例  
備考

Q: Quality L: Load LR: Load Reduction SQ: Score of Q category SLR: Score of LR category  
注1: 当該対象区における標準的な計画の得点が3点。NAは評価対象外とした項目を示す。敷地選定に関わる評価は対象外。  
注2: Qは、環境品質・性能(Q)のスコアSQ(Q-1、Q-2、Q-3のスコアにそれぞれの重み係数を乗じた合計値)から算定。  
Lは、環境負荷低減性(LR)のスコアSLR(LR-1、LR-2、LR-3のスコアにそれぞれの重み係数を乗じた合計値)から算定。  
注3: (3)の評価はオプションとし、実施設計段階および竣工段階で可能な範囲で記入する。

BEE: Building Environmental Efficiency

重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。 ①負荷抑制を踏まえた外皮計画⑨⑩高効率な設備計画とモニタリングによる省エネルギー運用の実現 ⑭高い耐震性と免震性の確保⑮緊急時の電気・給排水利用計画⑯⑰誰もが安全で安心して使用できる施設計画							
<b>“ストップ温暖化しずおか行動計画”の推進(Gloval Warming)</b>							
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策)/④部品・部材の耐用年数	Q-1	2	2.1	2.1.3	①	外皮性能
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
				3.2	3.2.2	③	昼光制御
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
				2.2.2		④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
			2.2.3		④	配管・配線材の更新必要間隔	
			2.2.4		④	主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)	LR-1	1			⑦	建物の熱負荷抑制
			2	2.1		⑧	自然エネルギー直接利用
				2.2		⑧	自然エネルギー変換利用
			3			⑨	設備システムの高効率化
			4	4.1		⑩	モニタリング
				4.2		⑩	運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫低環境負荷材)	LR-2	1	1.1		⑪	節水
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム
					1.2.2	⑪	雑排水利用システム
			2	2.1	2.1.1	⑫	躯体材料の再利用効率
					2.1.2	⑫	非構造材料の再利用効率
				2.2		⑫	持続可能な森林から産出された木材
				2.3		⑫	有害物質を含まない材料
				2.4		⑫	既存建築躯体などの再利用
				2.5		⑫	部材の再利用可能性
				2.6	2.6.1	⑫	消火剤
					2.6.2	⑫	断熱材
					2.6.3	⑫	冷媒
	■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善)	LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善
<b>“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)</b>							
	■サービス性能対策 (⑭耐震・免震/⑮信頼性)	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑭	耐震性
					2.1.2	⑭	免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑮	空調・換気設備
					2.4.2	⑮	給排水・衛生設備
					2.4.3	⑮	電気設備
					2.4.4	⑮	機械・配管支持方法
				2.4.5	⑮	通信・情報設備	
<b>“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)</b>							
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり)	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯⑰	ユニバーサルデザイン計画
			3	3.1	3.1.1	⑱	階高のゆとり
					3.1.2	⑱	空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)	Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
<b>“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)</b>							
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出
			2			⑳	まちなみ景観への配慮
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善)	LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善